

金剛寶戒寺便

<https://www.houkai-ji.jp>

令和七年四月一日発行 第二三号

檀信徒の皆様、こんにちは。「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」と申しますが、今年の年度末は特に早く感じられます。

境内では数少ない桜が満開を迎え、新しい会館と庫裡の建立から一年が過ぎました。この間、法事やお葬式で多くの方に会館をご利用いただきました。篤信なお檀家様とのお別れは寂しいものですが、お寺から心を込めてお見送りできたことはありがたいことでもあります。

先月は、一年に一度の巡廻布教がありました。今年は奈良の寶國寺より永田道範僧正をお迎えし、ご自身の体験をもとにした心に残るご法話をいただきました。

お話の主旨は、ある裕福なお家に嫁がれた女性です。子どもにも恵まれ、幸せそうに見えましたが、同居する姑さんとの関係に悩んでいました。お姑さんは決して悪気があるわけではなく、お孫さんが薄着をしていると「風邪を引くから」、裸足で泥遊びをしていると「ケガをすると危ないから」と子どもの健康や安全を思っている言葉が多かったのも、それがお嫁さんには口うるさく感じられていました。さらに、実家の母が柿を苦手だとしてたえても、お姑さんは毎年のように里帰りの

際には柿を持たせました。これも嫁の心を重くしました。

ところが、ある年、お姑さんから実母への手紙が柿を詰めていた箱の中から見つかります。そこには「お母様へ。柿には脳梗塞を防ぐ成分が含まれています。お薬と思って召し上がってください。どうしても苦手な場合はジャムにしてみてください」とレシピまで付けて優しい言葉が綴られていました。実は実母は以前に脳梗塞で倒れたことが有り、それを心配してお土産だったのです。

その手紙を読んだ瞬間、お姑さんの心遣いに気づき、お嫁さんの気持ちは少しずつ変化していききました。お姑さんの行動は何も変わらないのに、お嫁さんの受け取り方が変わったことで、悩みも薄れていったのです。

布教師さまはこのお話を通じて、「幸せは人から与えられるものではなく、自分で気づくもの。自分の心の持ちようが、幸せか不幸せかを決めるのです」と説かれました。

私自身も昨年、弘法大師のお言葉に深く感銘を受けました。「悟った方（仏さま）からご覧になれば、人は皆、自分の心によって自身の現実を創っている」という金言です。僧正のご法話を聞きながら、改めてその教えの深さを感じました。

写経の会には関心が高く、毎回多くの方にご参加を頂いています。薄字に書かれた般若心経を筆ペンでなぞるだけです、どなた

でも手軽に出来ると思います。参加者からは「あつという間に一時間が過ぎていた。」などのご感想も頂いています。興味のある方は是非チャレンジしてみてください。

法話の会

日時 五月八日（木曜日） 十四時より

演題 「運命を拓く言霊」

写経の会

日時 五月二十一日（水曜日）

十四時より約一時間

会費 千円

会場 金剛宝戒寺 檀信徒会館

「自分は運が悪い。」「どうして自分だけが、」と思っている方、一度講習会に参加してみてください。

一年以上前から構想をしていた樹木葬が今月中には完成の予定です。お墓は家族と入るものとのイメージがあると思いますが、今回の樹木葬はお友達や、ペットとも一緒に入れる区画を一部に作っています。

先月のお便りに書いた家庭菜園はなかなか時間が取れず、種と苗を買ったまま手をつけられていません。無農薬、無化学肥料でチャレンジしてみたいと思っています。フェイスブックやインスタで紹介出来たらと思っています。「母なる大地」という言葉もあります。土いじりには癒しもある様に感じています。一緒に土に触れてみませんか？ 合掌